

アサリ資源管理技術の開発

アサリ資源管理モデルの開発とその活用による資源管理方策の提案

三重県におけるアサリの年間水揚量は、ピーク時の1万5千トンから2千トン前後に激減しています。その原因としては、生息環境の悪化のほか、親貝の乱獲が指摘されています。

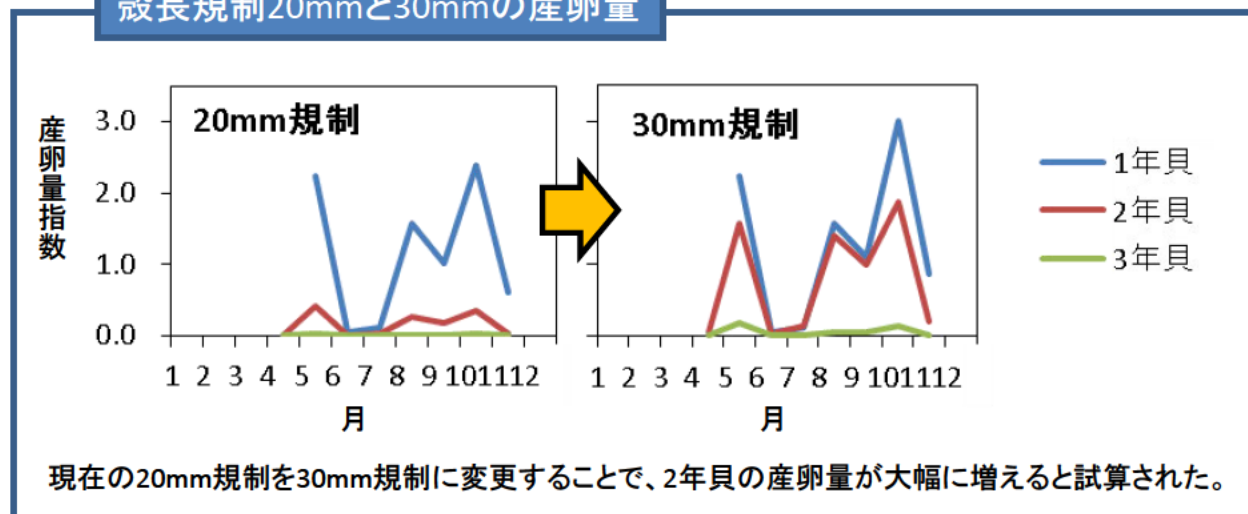


親貝の減少が問題となっている

親貝の保護策として、県の漁業調整規則では、現在、殻長20mm以下のアサリの採捕を禁止しています。

しかし、アサリの資源管理モデルを開発し、適切な親貝の管理方策を検討したところ、規制を30mmにした方が産卵まで生き残る親貝の数が増え、産卵量が大幅に増加し、親貝の保護策として優れていることが明らかとなりました。

殻長規制20mmと30mmの産卵量



今後は、アサリ資源の回復を図るため、漁業者や行政などの関係者が協力して、殻長規制を見直すことが重要と考えられます。



三重県水産研究所 鈴鹿水産研究室

Mie Fisheries Research Institute

〒510-0243 鈴鹿市白子1丁目6277-4

TEL (059)386-0163

FAX(059)386-5812

(2013年3月発行)